

## 大学における地学教員養成の現状と問題点

## Recent problems on training university students to be earth science teachers.

# 藤林 紀枝 [1]; 藤本 光一郎 [2]; 星 博幸 [3]; 天野 和孝 [4]; 中井 睦美 [5]; 松岡 篤 [6]

# Norie Fujibayashi[1]; Koichiro Fujimoto[2]; Hiroyuki Hoshi[3]; Kazutaka Amano[4]; Mutsumi Nakai[5]; Atsushi Matsuoka[6]

[1] 新潟大・教育・地学; [2] 東学大; [3] 愛教大・地学; [4] 上越教育大・学校教育・地学; [5] 大東大・文・教育; [6] 新潟大・理・地質科学

[1] Geol. Edu. Niigata Univ.; [2] TGU; [3] Dept. Earth Sci., Aichi Univ. Educ.; [4] Geosci., Joetsu Univ. Educ.; [5] Education, Daito Bunka Univ.; [6] Dept. Geology, Niigata Univ

新学習指導要領の導入により、物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎のうちから3つの履修が可能となる。これにより高校の地学履修者が増加する可能性は十分にある。しかし、大学受験を考えると、地学履修者の多くは文系学部への進学希望者と予想され、個別学力試験の地学受験者の数が増えるかどうかは微妙である。その点を考えると、地学履修「希望者」が増えても、学校教員の定員配置の事情から、教育カリキュラム作成過程で「地学」の開講数が増えるという楽観的な考えはできない。小学校の段階から自然に触れさせる機会を増やし、高校や中学の段階で、理系の生徒に地球惑星科学に興味をもたせることが重要と思われる。

一方で、大学における中学・高校理科教員の養成は、(1) 定員削減によって教育学部の教科専門教員数が減少し、(2) (中学・) 高校地学の採用枠が少ないことなどに起因して、地学分野の選択者が減少傾向にあるなど、さまざまな面で窮地に追い込まれている。中学・高校教員の採用が一本化されている都府県では、物理、化学、生物の採用枠しかない例もある。また理学部でも、免許法改定によって単位の取得が以前より難しくなっている。その結果、免許取得者の減少が懸念される状況にある。

大学生にとっては、専門分野を深く学ぶことは面白く、またその経験から得るものは大きい。教育力と専門力の両方を、バランスよく身につけさせることが大事と考える。本講演では、以上のような問題点について話題を提供する。